

## 高校生と学ぶ - 植物画を描く上での自立をめざして -

田地川和子・貴島せい子・肥田陽子  
(ひとはく連携活動グループ GREEN GRASS)

### はじめに

私達GREEN GRASSは1998年～2006年まで、人と自然の博物館、神戸市立森林植物園ほか兵庫県内で小・中学生を対象とした「こども植物画教室」を担当してきた。その教室で我々は植物の採集から描き始めるまでの準備を整え、こども達が描くことに集中出来る教室づくりをしてきた。「こども教室」開始から10年近くを経過し、この教室の参加者で引き続き植物画を描きたい高校生が出てきた。そこで、高校生が自立して植物画を描ける様にするプログラムの開発を目的として、2008年「植物画研究会」を立ち上げた。研究会では、絵画の技術のみでなく、こども植物画教室では体験しなかった、植物を描き出すまでの準備や心構えを含めて教える事とした。

2年間で11回の研究会を実施し、その都度起きた問題点を話し合いながら、自立を目指した研究会の取り組みを発表する。

### プログラムとそのねらい





「植物画」とは、植物のありのままの姿を植物学的に観察し、何の誇張も交えずに、正確に細密に描き表しながら、しかも芸術性を併せ持った絵画という事が出来る。科学の目をもってひとりで植物画を描くために、2つの大切な事がある。まず、植物への深い関心を持つこと。植物に好奇心や興味を抱かなければ、描く事が好きだけでは植物画を描くことは出来ない。身近な植物に心を留め、折々に観察し、よく知る。そこで得られた植物への感動や知識が植物画を描く事へと繋がっていく。そして、もう一つ必要になるのが描くための絵画の技術や植物画特有の技法の習得である。植物画に必要なこの点を踏まえて、次の8点のプログラムを開発した。


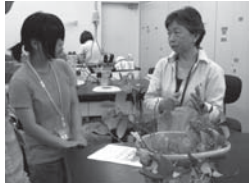



	プログラム	ね ら い
1	植物観察	自然の中の植物を年間通して観察し、成長や変化、植物の不思議を五感で知り、植物への関心を深める
2	植物採集	自分で採集する事により、採集に適切な用具の選択や使用方法、採集方法、保存方法、持ち帰り方を学ぶ
3	採集植物の整理、図鑑での特徴の確認、標本作り	目的に応じた植物の扱い方、植物の特徴を知り、資料保存する事を学ぶ
4	解剖、解剖図	植物の構造を描くためにルーペ、顕微鏡を使って解剖の仕方、器具の使い方、解剖図の描き方を学ぶ、また、拡大、転写方法を学ぶ
5	作品制作用具	植物画に適した水彩紙、絵の具、筆、あるいはデバイダー等の用具の情報を学ぶ
6	「兵庫のフェアブル展」への出品	学んだ解剖図を主体とした作品作りの体験、また学んだ事を身近に生かす事で大きな目標に繋げる
7	植物画展や本の鑑賞	完成度の高い原画作品や、世界の植物画集を見ることで、植物画の魅力や特徴を実感し、感性を磨く
8	植物画の制作	国立科学博物館主催「植物画コンクール」出品を目標に置き、学んだ知識や技術を実際に作品制作に生かす




以上を実践する事で自立を促すプログラムを進めた。

## プログラムの実施記録

それぞれの研究会で実施したプログラムと課題、問題点をここに挙げる。

研究会 開催日	プログラム	問題点と課題
第1回 2008年 4月3日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外観察・採集</li> <li>・標本の作り方</li> <li>・図鑑の検索の仕方</li> <li>・2年間通じて観察する植物を見つける</li> <li>・「植物画研究会」についての説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生3人に、植物に対する親しみや、自ら近づいて観察しようとする積極性が足りない。野外観察の機会を増やし、植物との触れ合いを深めていく。</li> <li>・5月連休中に各自が決めた植物を探し描き始めるようメールをするが、自主的に描くことは出来なかった。次回から、研究会でテーマを決めて描く時間を設ける。</li> <li>・研究会の目的、主旨、など文章にしたものを渡し、理解出来るように読みながら説明したが、反応が乏しい。</li> </ul> 
第2回 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物観察、採集</li> <li>・顕微鏡を使った植物解剖指導；ひとくは福田先生</li> <li>・解剖図の描き方と転写方法</li> <li>・解剖図を主体にした作品制作 (ペン、鉛筆、彩色などによる)</li> <li>・作品の記載事項(植物名、採集日、採集地、作者名、部分名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回はひとくは「兵庫のフェアブル」展、参加作品を制作する目的も兼ねた。事前の観察地の下見、目的に合った植物の試し採集と解剖など丁寧な準備を行って臨んだが、高校生の植物への関心が低い。多くの自生植物に関心は示すものの、採集に自ら積極的に関わろうとしない。</li> <li>・初めての体験の解剖などのプログラムを楽しんだようだが、それでも作業を促すなどしないと、進展していかない。</li> <li>・高校生3名中、2名からの退会申し入れがあった。1名のみとなった高校生への指導の問題が生まれた。</li> </ul> 
*夏休み植物観察会 神戸市立森林植物園 8月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物観察、採集(コンクール応募作品・画材用)</li> <li>・植物の特徴、描く時の注意点</li> <li>指導：園主任 福本先生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の特別の観察会は、急ぎで行った。国立科学博物館主催「植物画コンクール」に出品する作品制作を急いだ高校生が画材を求めて、「こども教室」に特別参加を求めたため、自立を促す会の目的に則して画材採集の機会をつくった。</li> <li>・研究会の主旨、目的を折りに触れ理解してもらおう努力が必要である。また、毎年のコンクール応募を目標としている高校生に、今年度の画材を得る機会を作ること気がつくべきであった。</li> </ul> 
第3回 8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクール応募作品へのアドバイス</li> <li>・「兵庫のフェアブル」展パネル製作</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生2名が退会后、1名だけの参加となった。1名を5人で指導する状況になった。来年高校生になる参加候補者に誘いの声かけを始める。</li> <li>・現在までの高校生の様子から今も、野外活動と制作との結びつきが弱いように感じる。さらに、より意識して対処する必要がある。</li> <li>・後日、完成した作品写真がメールで送られてきた。描く力は十分に育っている。</li> </ul> 

<p>第4回 12月14日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオイタビカズラの観察・採集</li> <li>・解剖、解剖図制作</li> <li>・図鑑などによる特徴確認</li> <li>・さく葉標本作り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な用具を使った果実の解剖などはレベルの高い体験であり、興味深く満足できたようだ。</li> <li>・年間を通して、観察し、作品に描く対象として選んだオオイタビカズラはこの時期に果実が充実することが判明。そこで今回の採集枝を描いておくことをアドバイスしたが、描き出すことができなかった。適切な時期を逃さないことが、作品制作の最大のポイントであることが理解されていない。これを理解し乗り越えなくては植物画は描けないことを、学んでほしい。</li> </ul> 
<p>第5回(2年目) 2009年 4月2日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外観察</li> <li>・植物の苗を持ち帰り、育て観察</li> <li>・植物画研究会の目的を再度説明</li> <li>・今年度の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生1名が加わり、新たに研究会への理解を得られるように努力する。</li> <li>・観察ノートを丁寧に作っていて、関心が芽生えているようだが、まだまだ自発的な植物への興味が見えにくい。</li> <li>・今年度の目標をコンクール作品制作として、対象植物を次回探すこととする。</li> <li>・経験に応じてそれぞれに適した個別の作品制作プログラムを組む。</li> </ul> 
<p>第6回 4月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の苗の葉のデッサン、彩色</li> <li>・植物画展の鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年目の高校生に対しては、さらに詰めた指導をして力を伸ばす。</li> <li>・大人の作品を鑑賞して、アートの部分を育てる。</li> <li>・1年目の高校生にとっては久しぶりの植物画であり、プログラムのためにはかなり基礎的な指導も必要。</li> </ul> 
<p>第7回 5月5日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物観察・採集(各自の画材植物を含む)図鑑での確認</li> <li>・採集植物のデッサン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の研究会は当初予定になかったが、次回夏休み研究会まで気持ちを途切れさせない様にとの配慮から実施した。</li> <li>・各自選んだ植物を、一年間通して描くことを念頭において、自分の手で採集させ、採集と制作が結びつく様に持っていく。</li> </ul> 
<p>第8回前期 8月2日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の対象植物の観察・採集</li> <li>・作品制作(コンクール、共生のひろば用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で描いた「アジサイ」の作品の名前と学名をメールで質問してきた。「セッカヤエアジサイ」の様であるが、アジサイは園芸用に交配して作られたものが多く、同定のむつかしさを伝え、森林植物園への問い合わせを促した。</li> <li>・独自で森林植物園に出向き、同定していただき、園内の個体の前で特徴の説明を受け、さらに枝と専門資料のコピーを提供いただいた。この行動に自立への一歩が見られた。</li> <li>・はっきりと判断出来ないものは書かないと言うことを教えた。「学名」が単に「横文字の花の名前」とは違うことを理解出来たか？この問題に関して、どのような対処が適切か指導側で話し合ったが、かなり専門的な部分に踏み込むことになり、本格的な指導は今回は難しいと判断した。</li> </ul> 

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回あったオオイタビカズラの果実が今回見つけられない。今年の冬は実はつかないのか？昨年12月の好機に描いておかなかったことが悔やまれる。高校生にはいい勉強になった。</li> <li>・1年目の高校生が顕微鏡でのヒノキバヤドリギの花の観察をするが、描くまでには至らない。昨年の基礎的なプログラムを受けていないので、いきなり作品作りをしながらの習得は、要領を得なくても無理はない。8月10日に描く機会を設ける事にする。</li> </ul>	
特別研究会 8月10日	・作品制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事との兼ね合わせが難しい1年目の高校生に、制作を助ける目的で機会を設けた。細かな指導と描く機会を多く作って、サポートする。</li> </ul>	
第8回後期 8月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製作中の植物の観察・採集</li> <li>・作品制作</li> <li>・拡大図の描き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向けて、前回アドバイスしていたことや、自発的な植物の観察が行われていない。研究会に参加することの意味が未だ十分理解されていないと感じ、話し合いを試みた。研究会毎に今まで多くの問題が発生し、十分解決されないで抱えてきた諸々が一気にでてきたのか、今回正直な気持ちをぶつけてきた。後日、再度メールで訴えがあり、それに対してメール上のやりとりでは適切ではないと考え、話し合いをしようとしたが叶わなかった。</li> <li>・コンクール目指して制作を続けてきた1年目の高校生が学業との両立で時間が取れず、コンクールの応募を断念し、「共生のひろば」発表に目標を変更する。</li> </ul>	
第9回 12月13日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作中の植物の観察・採集</li> <li>・作品制作、仕上げ</li> <li>・さく葉標本制作</li> <li>・共生のひろば出品準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察の結果、あきらめていたオオイタビカズラの果実を発見。これで、目標を達成するチャンスが生まれた。夏の枝をメインに作品を描き出して来ていたが、今回の実つき枝を発見して「描きたい！」と、自分の意思で描き直すことにした。</li> <li>・植物への感動が育ってくれたことがみられた。</li> <li>・昨年の解剖図、季節の異なる時期の覚書の枝など、すべてを頭にいれて構図を考え、デッサンする。2年間の研究会に参加してきた努力の成果が表れた作品が生まれた。</li> <li>・1年間だけの参加となった高校生は、ここに来て順調に仕上げを行った。</li> <li>・学業との両立で制作時間がとれず大変だったが、仕上げたことで植物画への興味を持ち続け、時間が許せばまた描きたいと言う意思がみられる。</li> </ul>	 

## 高校生の感想

2人の高校生から次のような感想を得た。

『植物画研究会を通して植物の採集の仕方、標本の作り方、解剖図の描き方などさまざまな事を学びました。これらの事は自分だけで出来ない事なので、体験できてとてもよかったと思います。とくに顕微鏡を使つての植物の観察や解剖は、私にとってとても興味深いものでした。肉眼で見ただけでは分からないものがはっきり分かり、新しい発見もあってとても面白かったです。』

『1年間だけ急ぎよ参加させてもらうことになりました。初めての高校生活と植物画を描く事の予定が上手く組み立てられなかったので、植物画研究会の方々には大変迷惑をかけたと思います。しかし普段は使う事のない器具や、知識を得る事が出来ました。作品をもっと創りたかったという後悔もありますが、充実した1年を送れたと思います。貴重な体験が出来ました。植物画研究会の方々、ありがとうございました。』

## 2年間の研究会で見たこと

### <研究会運営の注意項目>

2年間全ての研究会を終え、研究会毎に起こった問題等を整理してみると、次のような運営上注意すべき点が浮かび上がってきた。

- ① 「植物画研究会」の目的、主旨などへの理解
- ② 学校生活との両立
- ③ 会員数の問題
- ④ E-mail活用の利点と問題点、社会的なルールやマナー
- ⑤ より身近な目標の設定
- ⑥ 自主的に学ぶための植物への関心
- ⑦ 植物を描く心構え

### <困難を極めた日程調整>

研究会の運営にあたっては、日程調整が困難を極めた。この原因は②、③、④にあると考えられる。高校生を対象とした研究会では、②各学校の行事や学業が最優先であり、それに指導者側のそれぞれのスケジュールを調整する事が求められる。さらに、③の高校生会員の少なさ(1~2人)から、必ず高校生の参加がなければ研究会が成立しないという事情があった。日程調整や質問の連絡には、④メールを使い便利だった反面、メール文の書き方で意思の疎通がうまく回れず、却って混乱を招いた事もあった。メールを使う際には、社会的に通用するルールやマナーがある事を高校生に知ってもらう必要性も感じた。

### <継続のための心構え>

研究会を継続して高校生自ら積極的に活動してもらうためには、私達自身の心構えとして①、⑥、⑦が求められた。或いは、2年後の最終目的に向けて、目標を見失わずに気持ちを繋いでいくためには、①、⑤、⑥、⑦を心掛けて研究会を進める必要があった。一方、高校生達は学校生活との両立のため、時間的な制限が厳しい中活動を続けたが、彼女達の大変さの原因もこれらの項目①~⑦にあったと思われる。

### <残された課題>

運営中は様々な出来事に対処を迫られ、指導者側で話し合いを重ねながら研究会を進めてきたが、解決出来ないまま残した部分も多い。例えば、我々が目指した自立して植物画を描くために「一からの準備」といった基盤の部分に身に付けさせるところまでには至らなかった。具体的には、描きたい植物を手に入れる時など、「目的を告げ理解を求める」、「結果の報告を欠かさない」等、提供者に対する配慮や感謝といった、人間としての基本的なルールやマナーを身に付けている必要がある。これらは社会に受け入れられるために大切な事であり、高校生が大人に成長するためにも学ばなくてはならない事の一つである。私達は今回、「高校生と学ぶ」場

では、このような社会性の指導をも心掛けていく必要があることを実感した。

## まとめ

「植物画研究会」は極めて恵まれた条件と環境のもとにスタートし、活動する事が出来た。運営や絵画指導を担当した私たちにとっても、多くの事を学んだ2年間だった。植物の専門の先生方、植物画を専門とするGREEN GRASS、植物画の基礎的な技術を身に付けた高校生、この3者が揃い、人と自然の博物館の連携活動事業として館内の場所、器具、図書などの提供・協力を得て、初めて実現出来た。

運営にあたっては、毎回、研究会の実践記録を作り、問題点への対処やプログラムの工夫を話し合い、次の研究会に繋げていった。今回、植物画を描くために取り組んだプログラムは、高校生が目標の植物画制作を果たせた事で、適切なプログラムであったと判断している。

高校生は、時間的な問題や気持ちの維持など難しい点を何とか乗り越え、これらのプログラムを十二分に吸収した。高校生という年齢からくる未熟さはあるが、私たちは彼女達の若さが持つ大きな学ぶ力を感じた。

しかし、研究会の期間は短く、私達が目指した植物画を描く上での真の自立の道を彼女達が歩み始めるのには、今後を待たなければならないだろう。高校生がどのような進路を選ぶことになっても、この年月に学んだ事が彼女達の将来の助けになる事を私たちは願っている。

## 謝辞

人と自然の博物館の高橋先生、長谷川先生、福田先生には専門的な指導や運営上のアドバイスなどで、ご支援頂いた。神戸市立森林植物園の職員の皆様には、研究会へのご理解とご協力を頂き心からお礼申し上げます。